# 集中 OPINION

## 外国人の視点から日本社会を分析 日本の医療制度の実情と課題とは

**Roger Goodman**

オックスフォード大学 副学長
オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ 学長


**嘗てルース・ベネディクトの『菊と刀』やエズラ・ヴォーゲルの『ジャパン・アズ・ナンバーワン』がベストセラーになった様に、外国人研究者による日本人論は、しばしば私達日本人に大きな影響を与える。日本の帰国子女や児童虐待を社会人類学の視点から論じて来たオックスフォード大学副学長のロジャー・グッドマン教授もその1人だ。そのグッドマン教授が昨年秋から、日本の病院の同族経営を研究する為、日本に滞在している。日本の同族経営は、戦後の日本が復興、発展して行く中で重要な役割を果たしたという。長年、日本社会を見つめて来た研究者として、日本の医療制度の実情や課題をどう見ているのか、グッドマン教授に話を聞いた。**

**――日本について研究を始めた切っ掛けは？**

**グッドマン**　大学で社会学と社会人類学を学び始めた当初は、ラテンアメリカに興味が有り、インカの宗教について研究していました。日本との関わりが出来たのは21歳の時です。大学院に進学する前のギャップイヤーで、山口県宇部市の中学校9校で1年間、英語を教えました。丁度、教育委員会が英語の講師を探していたのを知り、応募したのです。その後、ラテンアメリカの研究を続ける為にオックスフォードに戻りましたが、担当教官に「これからは日本に注目が集まるだろう、日本について研究したらどうだ」と勧められました。実は私が山口にいた1981年に、日産自動車がオックスフォードに寄付をして「日産日本問題研究所」が出来たのです。そこで私も研究対象を日本に変える事を決めました。

**――日本について、どの様な研究を？**

**グッドマン**　博士課程で、最初に研究したのは帰国子女についてでした。1年間、茨城県つくば市に有る私立の中高一貫校で、教員をしながら研究をしました。帰国子女や留学生を積極的に受け入れている学校で、私は[illegible]を離れて暮らす生徒の為の学生寮の学寮長も務[illegible]いました。この時以来、私は一貫して私立の役[illegible]戦略に関心を寄せて来ました。

**――具体的に[illegible]取り[illegible]か。**

**グッドマン**　[illegible]の受け入れによってドラス[illegible]、時期でした。「帰国子女は[illegible]クに[illegible]長い、[illegible]」というイメージが社会に[illegible]、帰国子女を受け入れる学校は国際的であると[illegible]印象が高まり、帰国子女に対する対応も徐々に改善されました。例えば大学受験で


続きを読むには購読が必要です

詳しくはホームページをご覧下さい